

# センリトの裏側を探ったよ

商業施設の舞台裏を探ろう〜。読売新聞大阪本社はSENRITOよみうりで、小学生を対象にした「子ども記者」を公募し、抽選で選ばれた小学4、5年の男女4人が4月初旬、開業を控えた施設内を取材した。店舗運営や防災、建設にかかわる担当者らの話に熱心に耳を傾け、子どもならではの目線で記事をまとめてくれた。



防災センターで、担当の内藤さん（右）から説明を聞き、熱心にメモを取る「子ども記者」たち

取材に協力してくれたみなさん

- ・清水建設関西支店 工事長 大谷謙治さん（45）
- ・イオンモール イオン SENRITO 専門館リーダー 末松央行さん（33）
- ・関電ファシリティーズ SENRITOよみうり担当 内藤潤一さん（50）

スタツフ5000人  
便利な生活支える

イオンモールの末松さんによると、同館には35店ほが入っていて、約500人が働いているそうです。大きなお店は「コーヨー」「GU」などがあります。2階デッキ横には朝7時に開店するパン屋さんがあって、通きん、通学する人に便利です。4階には休けいスペースもあります。写真Ⅱ。

2期に分けて工事  
音を立てない工夫

SENRITOよみうりは、第一工事と第二工事に分けて、3年かけてつくったそうです。写真Ⅱ。この建物をつくった清水建設の大谷さんによると、苦労したのは、あまり音をたてないようにしたことだそうです。工事が終わった建物で働いている人やお客さんがいたからです。大きな音がする作業は営業時間外にしていたそうです。



あまりせずに、ふだんの買い物や生活が便利になる取り組みをしっかりとやっていくそうです。私は取材をして、買い物に行くのが楽しみになりました。（小学5年 越智倫香記者、写真も）



一番忙しかったときは、

一日約300人もの作業員さんが働いていました。取材してみても、この建物はきれいですごく重みが



施設を守るセンター  
監視装置でエツク

ほうさいセンターで働く関電ファシリティーズの内藤さんに聞きました。センターにはけいびやせつびの人が8人いて、電気や空調などをそう置でかんして、運転をやめたり、へんこうしたりしているそうです。写真Ⅱ。



施設の取材をした越智さん、田中さん、沢辺君、越後君（左から）

あると思いました。多くの方ががんばってつくられたからです。（小学4年 越後柊太記者、写真も）

歩行者デッキ新設  
広さ2倍の歩道橋

SENRITOよみうりは、もともと1977年にできたよみうり文化センターで、古くなったので建て替えることにしたそうです。新しい建物にはプールや飲食店、病院、銀行などが入っています。

4月21日にはイオンSENRITO専門館もオープン。建物の北側、東側には、歩行者デッキⅡ写真Ⅱが新しくつくられ、歩道橋も架け替えられました。デッキと歩道橋には雨よけのひさしがつくられ、歩道橋のはばが2倍に広まりました。北西側では、タワーマンションの工事をしています。2019年春に完成する予定です。（小学5年 沢辺響介記者、写真も）

館内にはほうはんカメラが何十台もあり、おかしなことがあったら、センターにうつっている画面を大きくしてかくにんし、けいびんがかつけます。安全にお買い物ができるのは、いつもほうさいセンターの人がみてくれていたからだと思います。（小学4年 田中ゆいこ記者、写真も）

